

第4章 総括（まとめ）

第4章 総括（まとめ）

第1節 今後に向けた課題の整理

開発した教育訓練プログラムは、将来的に機構の在職者訓練や他の教育訓練機関での活用を目指している。

最終回である第3回研究会では、教育訓練プログラムを活用した教育訓練実施にむけた課題の検討も行った。

（教育訓練実施に向けた課題）

- ・教育訓練プログラムを実施するための具体的な実習の内容
- ・各教育訓練プログラムを実施するための実習課題
- ・実習課題に関連する実習装置やソフトウェア及び機器
- ・教育訓練プログラムを実施するための教材の作成
- ・教育訓練プログラムを実施する講師の選定と確保

（受講者のために）

- ・受講前提知識の提示や教育訓練を受講のための体系図の整備
- ・開発した教育訓練プログラムと高度ポリテクセンターの既存コースを融合したコース受講体系の整備

（その他）

- ・今後も横幹連合と機構が意見交換を継続して教育訓練実施に向けて連携して行くべきである。
- ・指導する対象は違うが大学の教員と機構に属する職業訓練指導員が意見交換する場を継続させたい。

また、研究会委員からは、研究会が終了となっても、横幹連合と機構が情報交換等の連携を継続していくことが確認された。

第2節 課題への提言

（1）実習内容の開発と実習課題の整備

開発した教育訓練プログラムは、実習を中心に構成されているため、具体的な実習内容を確定することが重要である。そのため、機構の持つ在職者訓練のノウハウや横幹連合の知見を活かした実習内容や実習課題の設定が必要である。

具体的には、以下のようなことが考えられる。

- ・モデリングの実習を行う具体的な事例の選定。
- ・具体的な製品の設計を題材とするような製品設計課題を用意すること。
- ・チーム制による実習課題の整備（コンテスト形式のようなもの）。
- ・製造業の企業が持つ具体的な製造データを課題とすること。
- ・プログラム内容を体験・体感できる実習装置の製作。
- ・企業事例による実習課題の作成。

（２）実習課題に即した実習装置や機器の整備

開発した教育訓練プログラムは、新しい技術を活用するものもあり、今後利用が見込まれるソフトウェアや最新の機器を活用する内容も含まれている。

実習に必要な機器やソフトウェアは、教育訓練プログラムを実施する上で必要不可欠であるため、早急な整備が必要である。

（３）教育訓練プログラムを実施するための教材

教育訓練プログラムを実施するために、実習内容と実習課題に即した教材の整備が必要となる。

（４）講師の選定と確保

教育訓練プログラムは、新しい技術や新たな試みに関する内容があるため、講師の選定と確保に困難が予想される。機構内の部外講師や横幹連合所属の学識経験者への協力依頼が必要になると考えられる。

（５）受講者への情報提供

受講者が、教育訓練プログラムを受講しやすくするための情報提供方法の検討が必要である。

- ・教育訓練プログラムを受講するに必要な前提知識の提示。
- ・受講の順番や必要な前提知識がわかるような体系図（コースマップ）の整備。
- ・教育訓練プログラムと高度ポリテクセンターのセミナーコースを融合した体系図の整備。
- ・受講内容宣伝のための映像の作成。

（６）継続協議の必要性

この調査研究開発は、中堅技術者に求められる教育訓練ニーズを調査し、その調査結果から教育訓練プログラムの開発を実施した。

しかし、教育訓練プログラムを実施するためには、具体的な教材、実習内容、実習課題の作成、講師の選定等、今後、機構の在職者訓練のノウハウと横幹連合の高度な知見が必要となるため、実施に至るまで継続的な協議の場や意見交換等が必要だと考える。

参考文献

- 1) 国立社会保障・人口問題研究所, ” 日本の将来推計人口-平成 28(2016)年~77(2065)年”, 2017, ISSN1347-5248.
- 2) 人生 100 年時代構想会議, ” 人づくり革命 基本構想”, 首相官邸ホームページ, 2018-06.
<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/ichiokusoukatsuyaku/jinsei100.html>

